

神橋

寄藻川に掛けられた宇佐神宮へ通じるすべての橋は、神社の境内に通じていることから、神橋（神聖な橋）とみなすことができます。しかし、北側にあるアーチ状の「神橋」は、神社の表参道にあるため、この名前で最もよく知られている橋です。この神橋の側面と手すりは、不幸と邪悪なものから守護する明るい朱色に塗られています。側面には「三つ巴」という 3 つのコンマのような形の渦巻きの紋章などの装飾があります。このような紋章は、八幡神を祀る神社でよく見られます。

かつて宇佐神宮に勅使（天皇陛下の使い）が派遣されるたびに改めて造られた一時的な木板橋の代わりとして、1910 年に最初の常設の神橋が建設されました。同じ年に最初に建設されたもう 1 つの橋は、少し上流にあり、車で渡れる、飾り気の無いクリーム色の白橋です。2 つの橋を比べてみると、神橋の方がより精神的な役割を果たしていることがはっきりと分かります。つまり、大鳥居へとまっすぐに導く神橋は、そこを境に神社の神聖な境内に入ることを示しています。